

ブログ mori-
system

morilyn

2004.09.19 - 2010.07.30
<http://wienmoto.at.webry.info/>

ブログ mori-system

morilyn
2004.09.19 - 2010.07.30
<http://wienmoto.at.webry.info/>

ブログ紹介

理論社会学の实践 <http://www.f.waseda.jp/wienmoto/>

2010年8月

森 元孝

目次

2010・07・30（金）	ゼミ 春学期打ち上げ	1
2010・07・15（木）	社会に出て強くなる	2
2010・07・11（日）	これは面白い！	3
2010・07・05（月）	森ゼミ 夏合宿 軽井沢セミナーハウスにて	5
2010・05・20（木）	ゼミ 定例会	6
2010・04・26（月）	「ミルクホール」正常化12周年	7
2010・04・17（土）	ゼミ 1991年組の飲み会	8
2010・04・09（金）	「社会学理論の回顧から展望へ」 コメント の コメント	9
2010・03・26（金）	第一文学部社会学専修の謝恩会	11
2010・02・22（月）	すべての始まりであった	12
2010・02・07（日）	ゼミ セメスター打ち上げ、プレ歓迎コンパ	14
2010・02・04（木）	ボルトの締め忘れ 心の穴	15
2010・01・08（金）	オリンピック招致と東京都知事についてのイ メージ調査 第二次パネル第一次集計速報 (報告書要旨・速報)	17
2010・01・01（金）	謹賀新年 2010	18
2009・12・21（月）	川奈セミナーハウスで冬合宿	19
2009・11・05（木）	Imagining and Imagineering Tokyo	20
2009・10・13（火）	「社会学理論の回顧から展望へ」 コメント	22
2009・10・10（土）	「池子問題を考える」というところへ呼ばれ て	24
2009・10・07（水）	オリンピック招致と都知事のイメージ調査	

	(2009年8月) 中間報告	26
2009・09・16 (水)	「こころの玉手箱 3冊の経済原書 母の愛 情に涙」を読んで	27
2009・08・27 (木)	Image and Imagineering of the city Vienne	29
2009・08・19 (水)	23年前の話	30
2009・07・31 (金)	春学期打ち上げゼミ・コンパ	32
2009・06・24 (水)	Dahrendorf 卿	33
2009・06・22 (月)	鴨川セミナーハウス	35
2009・05・26 (火)	都市のシンフォニー	36
2009・05・24 (日)	Bio-Zwiebelrohstbraten	38
2009・05・18 (月)	Musical foundation of interaction	40
2009・05・03 (日)	Phenomenology, Social Sciences, and the Arts	42
2009・04・05 (日)	Postmodern Imagineering Tokyo 研究会	43
2009・03・28 (土)	社会学専修の謝恩会	45
2009・03・23 (月)	『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィー ン』への書評	46
2009・01・01 (木)	謹賀新年 2009	47
2008・11・10 (月)	早稲田祭 森ゼミ07 もちポテト屋	48
2008・09・18 (木)	Alfred Schutz and his intellectual partners	49
2008・09・08 (月)	古い友だち、新しい思い出	50
2008・09・04 (木)	Das Neue Wien	51
2008・08・31 (日)	第10回ドイツ日本社会科学学会大会	52
2008・07・28 (月)	文化構想学部 社会構築論系 森 元孝ゼミ	

	ナールの案内	53
2008・05・20（火）	『アルフレート・シュッツのウィーン』への 言及	54
2008・04・20（日）	アルフレッド・シュッツ著 佐藤嘉一訳『社 会的世界の意味構成（新訳版）』書評	56
2008・03・15（土）	International Study Program 2008 Soeul/ Tokyo	58
2008・01・29（火）	理論社会学の将来 - 農村社会学はどうなっ たか？	59
2008・01・17（木）	「オリンピックのイメージと東京都知事のイ メージ」調査（概要）	60
2008・01・02（水）	謹賀新年 2008年	61
2007・12・20（木）	社会学演習IIA 川奈セミナーハウス合宿	62
2007・12・01（土）	『貨幣の社会学』への書評	63
2007・11・04（日）	『貨幣の社会学』への書評	64
2007・11・01（木）	International Study Program Soeul II	65
2007・10・06（土）	第9回日本ドイツ社会科学大会（金沢大学） のプロシーディングス	66
	『貨幣の社会学 - 経済社会学への招待』	67
2007・10・03（水）	『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィー ン』への書評	69
2007・09・25（火）	遅ればせながらの夏休み	70
2007・09・23（日）	Woerglに行く	71
2007・09・22（土）	The 75th anniversary of the publication of Schutz'	72

2007・09・05（水）	Oskar Morgensternの生地	74
2007・09・02（日）	『貨幣の社会学 ―経済社会学への招待』 東信堂 10月刊行です。	75
	International Study Program Berlin/Erfurt	76
2007・03・06（火）	ISP 横浜国大	77
2007・01・08（月）	最初の書評をいただきました。	78
2006・12・31（日）	謹賀新年	79
2006・12・27（水）	新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣	80
2006・12・19（火）	社会学専修の学生たち	82
2006・11・27（月）	『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィー ン』の出版	83
2006・11・04（土）	東京都知事についての研究 ―調査報告書	85
2006・10・28（土）	日本社会学会大会（立命館大学）権力部会 （2）で司会をしました。	86
2006・10・14（土）	富士山	87
2006・10・05（木）	韓国に行ってきました。	88
2006・09・02（土）	ジョイント・セミナーに参加する	89
2006・06・28（水）	日本ドイツ社会科学会雑誌	90
2005・12・17（土）	川奈セミナーハウスでの合宿	91
2005・10・29（土）	日本社会学会大会（法政大学）で報告をし てきました。	92
2005・02・02（水）	Talcott Parsonsについて書く	93
2004・12・17（金）	鴨川セミナーハウス	94
2004・09・19（日）	ウィーン・早稲田ジョイントセミナー2004	

.....	95
-------	----

2010・07・30（金）

ゼミ 春学期打ち上げ

授業にまじめな「早稲田大学」となり、夏休みはようやく7月末の末から始まる。合宿での報告も、ほぼプロシーディングスの原稿としてまとめ、新宿に出てビアガーデン。お疲れさま。そして、夏は、それぞれ大切な時間を・・・



2010・07・15（木）

社会に出て強くなる

1996年の卒業生からメールをもらった。ジャーナリスト志望だった彼女、それは果たせず、アメリカから上陸してきた有名証券会社に入社した。当時、日本は金融恐慌、よくできた卒業論文を書いたが、果たせなかった夢を思うと、他人のこととはいえ、多少の心配も感じた。年賀状だけの挨拶、卒業して15年近くなり、ずーと東京にいたが、早稲田には卒業後一度も来たことがない。M&Aの部門にいと聞いていたが、「先生時間ありますか・・・」のメールに、「昼飯ごちそうするから、おいで」と大隈タワーの西北の風でランチ。名刺を見たら、課長になったということがわかった。

思い出したのは、さらに10年前の男子学生。同じくジャーナリスト志望だった。最大手の電機メーカーに入り、最初は工場配属。卒業後2年ほどたつての同窓会、ポツんと「帰り、線路に吸い込まれるような気持ちになる」と一言。これにも心配したが、今はこの大会社の広報部長。頭打って、痛い目にあって人は育ち、そして今がある。



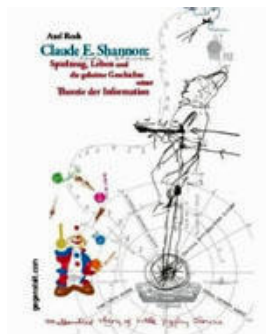
2010・07・11（日）

これは面白い！

Axel Roch, Claude E. Shannon: Spielzeug, Leben und die geheime Geschichte seiner Theorie der Information, gegenstalt Verlag 2010.

ドイツのメディア研究者Axel Rochの博士論文。本の装丁も美しいが、内容はコミュニケーションの数学理論で知られ、通信工学のみならず社会科学に大きな影響を与えたシャノンについての徹底的なバイオグラフィー研究。私は、こういう本が好きだが、またドイツでのこの種の伝記研究、しばしば徹底的なものが少なくなく、今もこの種の研究が高く評価されることを教えてくれる。博士論文とは、こういうものだという雛型だと思っている。

日本の社会学は、「社会調査士」なる怪しげな資格取得に大学院生も教員も憑りつかれて、思想軽薄、歴史喪失、論理滅裂に落ち込み救い難い状態にあるが、早く目を覚まして、こういう研究をめざしてほしいものだ。



http://www.amazon.de/Claude-Shannon-Spielzeug-Geschichte-Information/dp/398131560X/ref=sr_1_1?ie=UTF8&s=books&qid=1278813745&sr=8-1

2010・07・05（月）

森ゼミ 夏合宿 軽井沢セミナーハウスにて

文化構想学部社会構築論系森ゼミ 3、4年生そろっての夏合宿を軽井沢セミナーハウスにて行いました。テーマは、「環境社会学の諸問題」、6月のプレ合宿以来の「水俣病研究を学ぶ」の続きと、「地球温暖化と京都議定書を分析する」をテーマに充実した報告と熱い議論。議論は、次週、早稲田に戻って持ち越しにもなりました。

せっかくの軽井沢セミナーハウス、少しスコールに遭いましたが、テニス、サイクリング、バーベキュー、そして朝まで飲み明かしてのコンパで、ゼミの新しいページと新しい人間関係を拓くことができました。



2010・05・20（木）

ゼミ 定例会

ゼミでは、毎月「定例会」と称して飲み会を行っている。今月は、さかえ通りの居酒屋だった。ゼミという勉強の場も、楽しくある必要がある。



2010・04・26（月）

「ミルクホール」 正常化12周年



毎年GWの頃になると自然に思い出すが、今年は12年ひとまわりである。6限授業があるとき、休み時間にここでパンを買い食べてから教室に行くことにしている。しかしながら、ずいぶん遠い昔の話となり、学生はもちろん知らないが、教員さえも知っている人が少なくなった。これを出汁によそ目に大学本部役職者をわたっていく人ばかりで、忌々しいが、私には、今も重く緊張した瞬間を思い出させる場所である。

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Histories/Milkhall/Html/Milkhall1.html>

2010・04・17（土）

ゼミ 1991年組の飲み会

第一文学部社会学専修の調査実習1991年組は、統一地方選挙を題材に調査地を練馬区に設定してアンケートとインタビュー調査を1年であわせて行った。

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Histories/Html/researchsemi.html>



この点でも、器用なゼミであり、たいへん仲のよいゼミであった。その後も、1, 2年に1度は飲み会が続いてきた。海外赴任組も少なくない。たまたま四国に赴任したメンバーが、東京へ出張。これを理由に2年ぶりの再会であった。40を迎え、それぞれ活躍をしている話を聞き、教員をしていたことを幸せだと思いつつ終電で帰宅した。

2010・04・09（金）

「社会学理論の回顧から展望へ」 コメントのコメント

昨年10月、第82回日本社会学会大会が立教大学で開催された。そこでのシンポジウム「社会学理論の回顧と展望へ」は、富永健一先生の『思想としての社会学』新曜社 2008年という大著の出版がきっかけで催されたものである。討論者のひとりとしてコメントをさせていただいた。コメントは、このブログ10月13日に添付されているが、このコメントへのコメントをいただいた。『思想』4月号、「思想の言葉」において富永健一先生からのコメントがそれである。

20世紀社会学を思想史として見たとき、マルクス主義がどのように受容され換骨奪胎されていったかについては重要な問題だと考えている。富永先生の訳書としてもある Ralf Dahrendorf, *Class and class conflict in industrial society*、この原本はドイツ語で、1958年に出ている。オーストリア・マルクス主義、ドイツの社会民主主義、これらの1920年代の挫折を反省し、どのように戦後ヨーロッパの設計に役立たせるか、その真摯な理論的探究とともに、ヨーロッパの20世紀後半は、文化としての社会民主主義を根付かせた。日本では、社会主義に根を持つ政党は、こういうことをすることに完全に失敗していった。なぜか、これは重要な問いである。ダーレンドルフのような巨人がいなかったこともあろう。

シンポジウム1 社会学理論の回顧から展望へ

日時 10月12日(月祝) 13時20分～16時50分
教室 8号館8101

司会者 宇都宮 京子(東洋大学)・馬場 靖雄(大東文化大学)

1. タルコット・パーソンズ「行為理論」の流れ
東京大学名誉教授 富永 健一

2. 二つの秩序問題、二つの近代——シュッツ＝パーソンズ論争再考——
慶應義塾大学 浜 日出夫

3. 機能主義の未完のプロジェクト——パーソンズからマートンを経てルーマンへ——
東京大学 佐藤 俊樹

コメンテーター: 森 元孝(早稲田大学)・奥村 隆(立教大学)

そして、パーソンズ最大の受容者は、富永健一先生と Juergen Habermasであったという私の言っていることは間違いないであろう。私の意見をさらに加えれば、「行為論」では、現代社会の複雑性はおそらく扱いきれないであろうという点である。この点、社会学思想のメインストリームは、難しいところに突き当たっているように私には思える。

2010・03・26（金）

第一文学部社会学専修の謝恩会

ほんのこの間、去年の4年生を送り出したら、もう早くも昨日、卒業式が過ぎてしまった。第一文学部の4年生最後の年。文化構想学部に移籍をしたので、一文の学生諸氏とは、2年生の演習と、二つの講義だけの関係であったが、なかなかどうして思い出深い学生たちであった。

恵比寿の超高級ホテルでの謝恩会にも驚いたが、楽しく幸せそうな彼ら彼女らの顔は印象深く残った。人生も社会も厳しいが、楽しい思い出もよい。帰り際、いつもどおりの儀式で花束をもらったが、たいへん清楚。帰宅後、花瓶を出してきて



仕事場机の上に生けたのであった。

2010・02・22（月）

すべての始まりであった

30年前、ちょうど今頃、オーストリア、ウィーンに「留学」をした。飛行機に乗るのも初めての、それはそれは「学」への接近遙か遠く、社会的・生物学的適応に苦勞した1年余りであった。しかし、これが始まりであった。外国語上手になるのもそうだが、それ以前に、あまりに何も知らなさすぎる。これを克服せねば、「理論社会学」などやれるわけがない。そういう思いであった。まず徹底して歴史、思想史を学ばねば、社会科学の理論など考えることもできないと思った。『アルフレート・シュッツのウィーン』新評論 1995年、『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィーン』新評論 2006年、この二つはそのときの思いの卒業論文である。社会学を軸に、政治学、経済学、法学も射程に入れねばと誇大妄想のささやかな結論である。これらから、理論家として初めて前に進めると思っていた、早くも数年が経過した。アルベルト・ガッセの下宿のあった建物前に立つと、本当に外も財布も心も



寒かった日のことを思い出す。

目ざした「理論社会学」、今の日本社会学では絶滅領域。そんなものとは取り組まなくとも、一晩ほど読んだ解説本、怪しげな訳書から仕入れた、ほんの生半可な知で「キリスト教」「ユダヤ教」から世界宗教まで語り、環境や人間など大きな主題も、社会調査士になればすべてそれでわかると、物知り顔で語るのが日本社会学の特質となっていた。

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/>

2010・02・07（日）

ゼミ セメスター打ち上げ、プレ歓迎コンパ

秋学期が終わり、冬合宿のプロシーディングスも完成し、打ち上げコンパを開催しました



。4月からの新3年生を交えてのプレ歓迎コンパ。楽しいひとときでした。

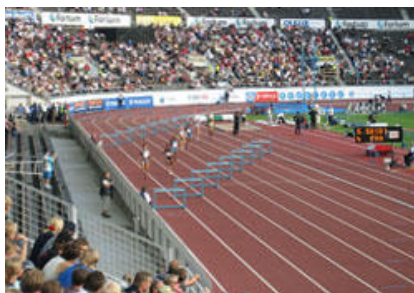
2010・02・04（木）

ボルトの締め忘れ 心の穴

先週1月29日夜、高校時代の陸上部OB会。卒業してもう35年を越える。400メートルリレーのバトンをもらっていた1年後輩から丁寧な招待状、1ヶ月も前から楽しみにしてJR切符を買い、金曜日夜の予定は全部調整をして、家を出て小田原から「ひかり」で行くのがよいと、行ったはよいが、午後4時、「14時xx分のこだま65号は遅れます」というエンドステープを繰り返し聞かされ、寒い中、5時過ぎ、もう間に合わない、と、後輩に電話した。

その後、動き出したと聞いたが、翌朝仕事があるので、夜一次会だけの参加、その時間の終わりくらいに到着してとも思いい、残念無念の涙で家に戻った。午後8時、宴もたけなわの頃に電話をした。懐かしい声を聞きながら、またまた残念のため息。

聞けば、パンタグラフの舟体とかいうもののボルトの締め忘れ。たしかに、あれは舟の形をしているなとは思ったものの、心にぽっかり穴があいた。新幹線往復の切符は払い戻しとなったが、自宅から小田原までの運賃は、いったいどんな意味があるのかと思うのであった。JRに乗らず関わらない



生活をしてみたい。次は、きっとボルトの締めすぎをやるであろう。

昨年9月に公表したものに続くパネル調査の第二次結果。これをさらに2年継続をしていく。「ポスト・モダン」都市と「プロジェクト」の関係、そして「縮小化する日本社会」との関係は興味深い。

[illegible]

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Study/General/research01.html>

2010・01・01 (金)

謹賀新年 2010

今年は、質の年に。



2009・12・21（月）

川奈セミナーハウスで冬合宿

文化構想学部最初のゼミ生たちと、川奈セミナーハウスにて冬合宿を行った。春学期、秋学期と鍛えられ、よく本を読み、よくコンピュータを使い、充実したプレゼンがたくさんあり、たいへんすばらしい合宿であった。早稲田大学の学生は、鍛えれば、どんどん実力を発揮していく。



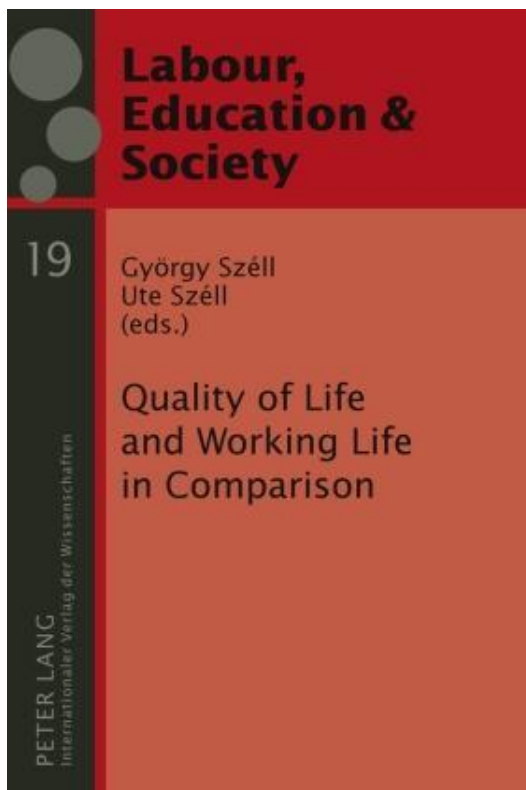
2009・11・05 (木)

Imagining and Imagineering Tokyo

昨年8月にオスナブリュックで開催された日本ドイツ社会科学会大会のプロシーディングスが出版された。私の原稿は、"Imagining and Imagineering Tokyo: Asking with and to the Olympic Games in Tokyo 2016 "として掲載されている。オリンピックは来ないことになったが。

[http://www.peterlang.de/index.](http://www.peterlang.de/index.cfm?vID=58633&vLang=D&vHR=1&vUR=2&vUUR=1)

[cfm?vID=58633&vLang=D&vHR=1&vUR=2&vUUR=1](http://www.peterlang.de/index.cfm?vID=58633&vLang=D&vHR=1&vUR=2&vUUR=1)



2009・10・13 (火)

「社会学理論の回顧から展望へ」 コメント

この連休、第82回日本社会学会大会が立教大学で開催された。そのシンポジウム「社会学理論の回顧と展望へ」が開催された。富永健一先生の『思想としての社会学』新曜社 2008年という大著の出版がきっかけで催されたものである。富永先生とお二人の有名な先生に向けてコメントをすることになった。コメントという意味もあるが、「理論社会学」の基本課題を確認したつもりである。これから、この意見の基本線を本に仕上げることになる。

シンポジウム1 社会学理論の回顧から展望へ

日時 10月12日(月祝) 13時20分～16時50分

教室 8号館8101

司会者 宇都宮 京子(東洋大学)・馬場 靖雄(大東文化大学)

1. タルコット・パーソンズ「行為理論」の流れ

東京大学名誉教授 富永 健一

2. 二つの秩序問題、二つの近代——シュッツ＝パーソンズ論争再考——

慶應義塾大学 浜 日出夫

3. 機能主義の未完のプロジェクト——パーソンズからマートンを経てルーマンへ——

東京大学 佐藤 俊樹

コメンテーター: 森 元孝(早稲田大学)・奥村 隆(立教大学)

http://www.soc.nii.ac.jp/jss/research/conf82_info.html#sympo1

コメントは、次に掲載してあります。

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Study/General/MorisComment.pdf>

思想としての社会学ー産業主義から社会システム理論まで

新曜社

富永 健一



ユーザレビュー:



古典と古典の連続性を ...



大理論社会学のアンソ ...



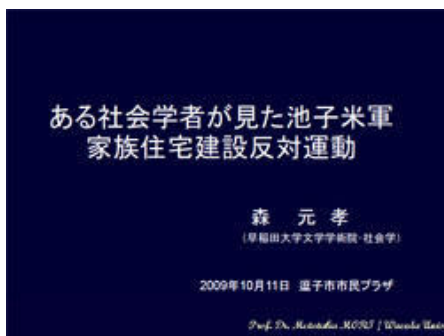
Amazon アソシエイト by ウェブリブログ

2009・10・10（土）

「池子問題を考える」というところへ呼ばれて

1987年に教員になったときから10年間、当時注目を浴び議論がなされた神奈川県逗子の池子米軍住宅建設反対運動を調査した。最初は、社会調査実習という授業科目の一環で始めたが、複雑になり途中から単独でやっていくことになり、1996年に『逗子の市民運動』（御茶の水書房刊）としてまとめた。これは書評を種々もらった仕事であるが、さらに10ほど経過して、同じ池子米軍接收地の横浜市側に追加住宅建設の問題が起こり紛糾している。

過去に何があったのかについて話をして欲しいと頼まれた。その昔、インタビュー、アンケートと10年間世話になった町であり、喜んで引き受けることになった。



逗子の市民運動

楽天ブックス

池子米軍住宅建設反対運動と民主主義の研究 著者：森元孝出
版社：御茶の水書房サイズ：単行本ページ数：3



楽天市場 by ウェブリブログ逗子の市民運動－池子米軍住宅
建設反対運動と民主主義の研究

御茶の水書房

森 元孝



Amazon アソシエイト by ウェブリブログ

2009・10・07（水）

オリンピック招致と都知事のイメージ調査(2009年8月) 中間報告



8月末の総選挙前、標記の調査を実施した。中間報告（単純集計結果だけだが）の一部を公表する。Imagineering and Imaging の研究の一部である。

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Study/General/research01.html>

2009・09・16（水）

「こころの玉手箱 3冊の経済原書 母の愛情に涙」を読んで

『日本経済新聞』9月15日夕刊文化欄に、商工組合中央金庫社長関哲夫氏の標記タイトル文章が載っていた。そのまま画像貼付は新聞記事の著作権許諾が必要であり不可なので、一部引用させてもらうと、「50年近く前、経済学の名著であるドーフマン、サミュエルソン、ソローの〈線形計画と経済分析〉の原書を手にしたときの興奮は今も忘れられない。大阪大学の学生だった私は〈線形計画と経済分析〉の演習に参加していた。同書はゲームの理論など新しい経済分析の教科書として有名で・・・古本屋でその原書を発見した。正札は忘れたが、店主との値引き交渉の末に商談は3000円で成立。だが貧乏学生にカネはない。国立大学の年間授業料が9800円だった時分のことだ。半ばあきらめて家に帰ると、母が苦しい家計からポンと出してくれた。本を買える喜びと母の愛情の深さに涙が出た。・・・学生時代の大半はこの3冊の原典の演習と研究に費やした。お昼すぎに始まる研究会は夕刻までかかったが、暗くなった帰路での充実感が懐かしい。3冊はしばしば読み返す。具体的な処方せんには役立たないが、頭を整理する際の支えになった気がしている。・・・」と続いていく。

大学学部で原書を読まなくなって久しい。早晩、大学院でもそうなる勢いである。早稲田大学には今も近くに「古本屋」街が小さくなったが残っている。しかしそこで原書を探したことなどなく卒業する学生は珍しくない。英語以外のヨーロッパ語はもう社会学では大学院でも教員においてもごく限られた言葉

になりつつある。授業は、power pointで行い、その原稿がpdfになって大学が授業料を上げる理由のひとつにもして整備したcourse n@viにアップしてあり（ノートを取らなくてもよいと愚かにも勘違いする学生もいるほど）、ちょっとした調べ事は、図書館ではなくwikipediaでコピスぺすればよい時代である。

私に



も、この記事に載せられているぼろぼろになった3冊の＜美しい＞写真に匹敵する2冊がある。Talcott Parsons, The Structure of Social Actionの2巻である。学部3年生の夏休みから読み始めた。1977年のことである。その時のノートとともに、今も書棚にある。わからないことを教えてもらいに、何時間もお邪魔した故丹下隆一先生を思い出す。これが始まりであった。留学しようと思ったのもこの頃であった。

2009・08・27（木）

Image and Imagineering of the city Vienne

学部再編で昨年春学期から、持ち駒の内容が大きく変化し、このセメスターはその最後の調整。マルチ・メディア化、オンデマンド化というひとつの考え方にそって、「ウィーン：

都市のイメージ、イメージの都市（ヨーロッパ・地中海・イスラーム文化研究2）」をフルオンデマンドで制作することになり、撮影に入った。オンデマンド授業により、教室に赴かなくてもよいが、夏休みは制作のために、15回、大学のスタジオに通うことになる。7月末日まで春学期、8月初旬は「オープンキャンパス」と未済試験などで出校。

ノートとチョーク、Power Pointで授業するというのとは違い、半年ほど前から90分15回分を作り、著作権許諾申請をいろいろやっていく、この手間はどうか解すべきか？ たしかにここ30年ほどの写真を中心にしたコンテンツのオンパレードの授業は、教室のそれとは異なるのであるが。



2009・08・19（水）

23年前の話

秋に予定されている会での準備もあり、さる本を熟読していたら、23年前に私が訳出した文章を論拠のひとつに、別の研究への反論が組み立てられているのに気がついた。まだ教員になる前、助手の時、正確には大学院生の学籍があった時代の、実は恥ずかしい活字になったもののひとつである。訳出の責任は私に当然あるのであるが、反論をしていく際の論拠として使える代物であるのかについては、訳出者の私にして、ほとんど自信はない。翻訳は、しんどい仕事だと改めて思った次第である。

私より一世代若い東京大学の新進気鋭の社会学者佐藤俊樹先生による『意味とシステム』勁草書房 2008年、84頁以下の展開である。そこでの展開の趣旨は理解できるが、当時の私の訳文には、批判対象の今ひとつの著名な著者への反論の論拠となりうるほどの支持力はまったくない、訳出者が自分で言うのは無責任でもあるが、残念ながら浅はかな代物である。

意味とシステム―ルーマンをめぐる理論社会学的探究

勁草書房

佐藤 俊樹



ユーザレビュー:



萱野稔人の「佐藤には ...



必読：もっとも強力な ...



Amazon アソシエイト by ウェブリブログ社会システムと時間論－社会学的啓蒙（ニクラス・ルーマン論文集 3）

新泉社

ニクラス・ルーマン



Amazon アソシエイト by ウェブリブログ

2009・07・31（金）

春学期打ち上げゼミ・コンパ

春学期打ち上げゼミコンパ。私の誕生日ということで、思わぬバースデーケーキをいただいた。



2009・06・24（水）

Dahrendorf 卿

2003 年秋、コンスタンツ大学を訪れたとき、たまたまこの大学の創設に深くかかわったひとりである Ralf Dahrendorf の講演を聴く機会を得た。「民主主義」について、とりわけ議会制民主主義の意味と、当時ヨーロッパにあふれていたポピュリズムをどう批判的に見るかという、たいへん勉強になる講演会であった。

大学 4 年生のとき、Dahrendorf の Class and class conflict in an industrial society という有名な本を辞書を引き引き読んだ思い出がある。社会学を究めるにはドイツ語をマスターせねばならないと思った。今や「社会学」は、調査実習で「正しい」報告書の書き方を学び、社会調査士の資格を得る学問になってしまった感がある。私は、早稲田大学の社会学専門のコースから離れ、文化構想学部社会構築論系に移動することになったが、大学制度急変も原因にはあるが、〇字検定同様、この種の「資格取得推進主義」の大学教育に嫌気がさしたのが最大の理由かもしれない。

さて、Dahrendorf、雑誌 Merkur の 5 月号に、「プロテスタンティズムに戻れるか？」という刺激的な文章を書いている。1929 年生まれの人を見習いたい。広い学識と、透徹した洞察力、年を感じさせないすごいエネルギー。社会学は、ヴェーバー、高田保馬、シュッツ、パーソンズ、ルーマン、ハーバマス、そしてダーレンドルフと、調査報告書の書き方教室のコセコセ人間製造カリキュラムとは別世界の想像力と領域横断、形式解体のダイナミクスに支えられてきたはずである。



2009・06・22（月）

鴨川セミナーハウス

文化構想学部社会構築論系現代共生理論ゼミの第1期生最初のゼミ合宿を、鴨川セミナーハウスで行いました。各セメスターを、合宿でまとめることを目標に、いくつかの共通テーマを授業で同時並行して進めていく形式で、社会学プラス α の領域を報告と議論の繰り返しで知識を増やし議論のスキルアップをしています。今回は、川奈セミナーハウスの予定。



2009・05・26（火）

都市のシンフォニー

このブログでも何度か触れているが、International Study Programをつうじて、都市のイマジニアリング、イマジニングを主題にジョイントを行ってきた。その延長上で、ダルムシュタットで、1920年代の大都市の生活のリズムの変化について、ベルリン、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京・・・などと映像をつうじて、たいへん興味深い催しが開かれる。「帝都復興シンフォニー」が、日本からドイツに寄贈されることになった。大きな文化交流にほんの少しかかわって気持ちがよい。

KINOTERMIN	
Fr 12.6. 20.30 Uhr Klassiker & Raritäten BERLIN. DIE SINFONIE DER GROSSESTADT Deutschland 1927, R: Walther Ruttmann, 65 min Klavierbegleitung: Ulrich Rügner Einführung: Franziska Bollerey	Do 25.6. 20.30 Uhr REGEN Niederlande 1929 R: Joris Ivens, 12 min OF HOOGSTRAAT Niederlande 1929 R: Andor von Barsy, 12 min OF Kopie: Österreichisches Filmmuseum, Wien KLEINER FILM EINER GROSSEN STADT ... DER STADT DÜSSELDORF AM RHEIN Deutschland 1935 R: Walter Ruttmann, 14 min DANZIG. LAND AN MEER UND STROM Deutschland 1939 R: Eugen York, 14 min MÄNNISCHER STADT Menschen in einer Stadt Schweden 1947, R: Arne Sucksdorff, 18 min OF SAUSALITO USA 1948 R: Frank Stauffacher, 11 min OF Einführung: Chris Dahne
So 14.6. 20.30 Uhr ŠAGAJ SOVET Vorwärts, Sowjet UdSSR 1926, R: Dziga Vertov, 70 min OmiÜ MOSEKA Moskau, UdSSR 1927 R: Mihail Kaufman, Il'ja Kopalin, 60 min, OmiÜ	Fr 26.6. 18.00 Uhr ROTTERDAM Niederlande 1963 R: Herman van der Horst, 15 min OF DIE STADT BRD 1960 R: Herbert Vesely, 15 min DÜSSELDORF – MODISCH, HEITER, IM WIND VERSPIELT BRD 1961, R: Herbert Vesely, 11 min EN BY VED NAVN KOPENHAVN Eine Stadt namens Kopenhagen, Dänemark 1960 R: Jørgen Roos, 18 min OF HAMBURG Dänemark/BRD 1962 R: Jørgen Roos, 11 min OSLO Dänemark/Norwegen 1964 R: Jørgen Roos, 12 min OF
Mi 17.6. 20.30 Uhr RIEN QUE LES HEURES Frankreich 1926, R: Alberto Cavalcanti, 37 min OF FUKUO TEITO SHINFONI Sinfonie vom Wiederaufbau der kaiserlichen Metropole, Japan 1929, 32 min OF Kopie: National Film Center, The National Museum of Modern Art, Tokyo Klavierbegleitung: Ulrich Rügner Einführung: Chris Dahne	So 27.6. 22.30 Uhr I Samstagsfilme CONTINUUM USA 1987 R: Dominic Angerame, 15 min OF DECONSTRUCTION SIGHT USA 1990 R: Dominic Angerame, 13 min OF PREMONITION USA 1995 R: Dominic Angerame, 11 min OF IN THE COURSE OF HUMAN EVENTS USA 1997 R: Dominic Angerame, 25 min OF LINE OF FIRE USA 1997 R: Dominic Angerame, 9 min OF
Fr 19.6. 20.30 Uhr MANHATTAN USA 1921 R: Paul Strand, Charles Sheeler, 12 min OF TWENTY-FOUR DOLLAR ISLAND: A CAMERA IMPRESSION of New York USA ca. 1925-27 R: Robert J. Flaherty, 13 min OF SKYSCRAPER SYMPHONY USA 1929 R: Robert Florey, 11 min OF A BRONX MORNING USA 1931 R: Jay Leyda, 14 min OF MANHATTAN MEDLEY USA 1931 R: Bonney Powell, 10 min OF FOOTNOTE TO FACT USA 1933 R: Lewis Jacobs, 8 min OF PURSUIT OF HAPPINESS USA 1940 R: Rudolf Burckhardt, 8 min OF N.Y., N.Y. A DAY IN NEW YORK USA 1958 R: Francis Thompson, 15 min OF Einführung: Henning Engelke	So 28.6. 20.30 Uhr BERLIN: SINFONIE EINER GROSSESTADT DE 2002, R: Thomas Schadt, 80 min In Zusammenarbeit mit
So 21.6. 18.00 Uhr WELTSTADT IN FLEGEJAHREN. EIN BERICHT ÜBER CHICAGO Deutschland 1931, R: Heinrich Hauser, 65 min HALSTED STREET USA 1934 R: Conrad Friberg, 15 min OF THE CITY (Ausschnitt) , USA 1939 R: Ralph Steiner, Willard Van Dyke, 16 min OF Einführung: Helge Svenshon	kunsthalle darmstadt



2009・05・24（日）

Bio-Zwiebelrostbraten

ヨーロッパへの乗り換えはいつもウィーン。学生時代留学時の旧友と逢って、飲んで食べてが目的だったが、15年ほどのうち、みなベジタリアンになり、ノンアルコール派になってしまった。食事は私には味気ないものとなってしまったものの、面白いのは、久しぶりに会うのだからと、いろいろ紹介してもらうベジタリアン専用レストラン、すなわちビオ・レストラン。たくさんの肉料理模造コピーメニューがあること。

Zwiebelrostbraten は、ウィーンの名物料理のひとつ。カリカリに炒めたタマネギがワイン・ソースとともに、ドカツとステーキ肉にかけてあり、それはそれは「不健康？」にボリュームのある食事。若い頃は、これを食べることが楽しみであったが、今は、ちょっと遠慮したい。今回は、たまたま Bio-Zwiebelrostbraten なるものがあり、これを注文した。ステーキ肉を、おそらく Bierteig で模して作ったのであろう。少しは似ているが、食感は大いぶ違った。



2009・05・18 (月)

Musical foundation of interaction

Musical Foundation of Interaction



-Music as form and medium

I would like to attempt to define the concept of music as a medium, with referring and interpreting the Viennese manuscripts by Alfred Schutz. Particularly interpreting Fritz Heider's idea of medium as distance perception, which Niklas Luhmann also had often mentioned in his later years, I intend to propose that we can use music as a fundamental medium, which can constitute and coordinate various social orders among time, space, action, lived experience, Thou- and They-orientation etc.

Furthermore, if I could say, I wish I would define music not only as one of lots of media but also as one of the most important media in our today's world.

1. Two temporal perspectives ‘ monothetical ’ and ‘ polythetical ’

Figure 1 is a famous cone model of the internal time by Henri Bergson . The apex S contacting the plane P is always being continuing to renew toward the right direction. This renewal means a proceeding of time. With a movement of the apex to the right direction, the height h grows longer and longer, and the volume of this cone increases. This means an accumulation of the memory.

2009・05・03（日）

Phenomenology, Social Sciences, and the Arts

ドイツ、コンスタンツ大学において標記の国際学会が開催される。私の報告は、"Musical Foundation of Interaction - Music as Form and Medium"。昨年夏前から準備してきた内

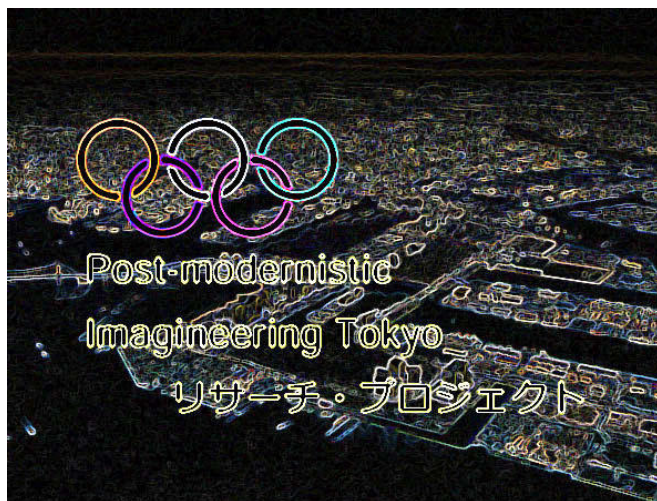


容である。今年前半のメインイベントである。

<http://www.uni-konstanz.de/soziologie/archiv2/projekte/humboldt/pssa/index.html>

2009・04・05（日）

Postmodern Imagineering Tokyo 研究会



数年行ってきた「ポスト・ポピュリズム東京」の研究会に予算がついたこともあり、「ポスト・イマジニアリング東京」研究会と名称を変えて、2016東京オリンピック招致をテーマにして、「散逸する公共性」を主題に厚みのある経験的調査研究を本格的に開始することになった。

かつて著書『逗子の市民運動』では、「公共性」と「社会運動」を積極的に主題化してきたが、これらの概念のゾンビ化・貝殻化をどのように経験的データとともに理論としてまとめるかが、これから3年ほどの課題である。早稲田の社会学大学院生は払底状態であるが、若い精鋭グループと研究をすることは楽しいことである。

逗子の市民運動－池子米軍住宅建設反対運動と民主主義の研究 御茶の水書房

森 元孝



Amazon アソシエイト by ウェブリブログ

2009・03・28（土）

社会学専修の謝恩会

教員になって22年が過ぎた。助手時代から計算すると、この新学期で4半世紀目となる。たまたま学部再編のため、今年送り出した社会学4年生と来年度の4年生が、第一文学部・第二文学部の最後の学年となる。ということもあり、今回は最後となるか、来年が最後となるかわからぬが、一区切りの年度に立っていること、大学の急激な変化を改めて感じるところである。



2009・03・23（月）

『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィーン』への書評



関西社会学会の雑誌『ソシオロジ』164号に、大阪経済大学の城達也先生による拙著への書評が掲載され、私の「書評に
応えた」も掲載していただきました。学術雑誌の重要な使命の
ひとつに書評があります。書いたものは、どのように評される
かにより価値が決まってくるものであり、また評者はどのよう
に読んでいるかを知ることにより、新たな発見と議論ができる
ものです。

2009・01・01（木）

謹賀新年 2009

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2009年1月1日



2008・11・10（月）

早稲田祭 森ゼミ07 もちポテト屋

早稲田祭が「正常化」し、入り口でパンフを押し売りされたり、模擬店の所場代を求められたり、そんなことが昔あったのかと思えるほどの変わりよう。1997年、早稲田祭が中止になった時、私は第一文学部の学生担当教務主任であり、早稲田祭教職員側委員でもあった。時が経ったということか、教員23年目の今年、模擬店を開いた学生たちから、「いつもお世話になっています」ということで、彼ら彼女らのささやかな営業収益の一部でご馳走をしてもらった。たいへん光栄なことだと思った。「もちポテト」屋、「メラミン」の入っていない国産の粉を買ってきたとのこと、たしかに「国産」と書いてあった。



2008・09・18 (木)

Alfred Schutz and his intellectual partners

ドイツのコンスタンツ大学出版会から、アルフレート・シュッツ研究の世界的権威たち Hisashi Nasu, Lester Embree, George Psathas, Ilja Srubar 各先生の編により



Alfred Schutz and his intellectual partnersという英文500頁の本が出た。その中に、"Spontaneity and Relevance -Reading Hayek with Schutz"として寄稿した。
<http://www.uvk.de/buch.asp?ISBN=9783867641289&WKorbUID=195394171&TITZIF=2233&be=&uBe=>

2008・09・08（月）

旧い友だち、新しい想い出

昨年も9月ウィーンにいた。アルフレート・シュッツの国際会議で報告に来ていたからだ。その合間オペラ座にあるカフェで旧い友とコーヒーを飲みながら、お互いのことを話していた。もう30年を超える付き合いになると、話はつきない。たまたまそのエスプレッソのカップ、Julius Meinlというオーストリアではよく知られたコーヒーメーカーのロゴがデザインされていた。とても美しく見えたので、これ言いなあと行って別れた。今回、ヴェーリンガーシュトラッセのこの旧い友の新装中のオフィスを見せてもらい、「じゃあまた来年」と帰ろうとしたら、「割れるもので悪いけど、これ」とビニル包みをもらった。あけてみたら、女房の分もということで、二つ入っていた。これには感激した。エスプレッソを飲みつつ、秋学期開始前までに終わらせる仕事を始めた。



2008・09・04（木）

Das Neue Wien

オスナブリュックでの会議のあと、ウィーンに来ている。街を歩いていると、28年前に初めて留学で来たときの楽しい思い出よりも、どちらかと言うとつらかったときのことを思いだす。比較都市論を映像にまとめるということも、いろいろなところで撮影をしたが、この地と仏教、とりわけ禅の新しい関係に出会い、新鮮であり大いに興味を持ったのであった。



2008・08・31（日）

第10回ドイツ日本社会科学大会



学会で報告するためにオスナブリュックに来ている。3日間、缶詰の会議。疲れはしたが、私の報告へも意見をいただき、新しい人たちとたくさん出会えてことは嬉しいことであつた。

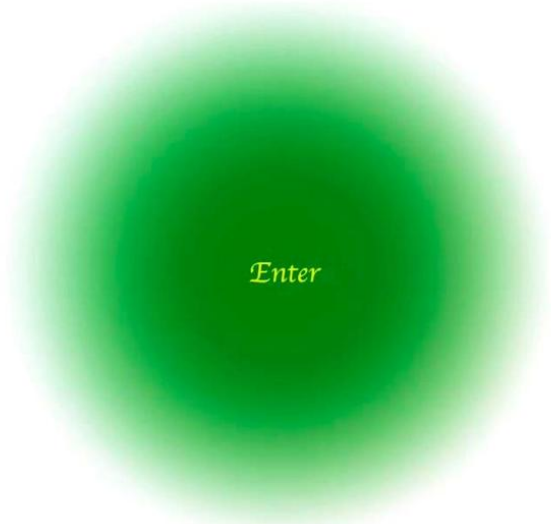
2008・07・28（月）

文化構想学部 社会構築論系 森 元孝ゼミナールの案内

文化構想学部の私のゼミの案内。

Welcome to Prof. Dr. Mori's Homepage

08/07/28 23:01



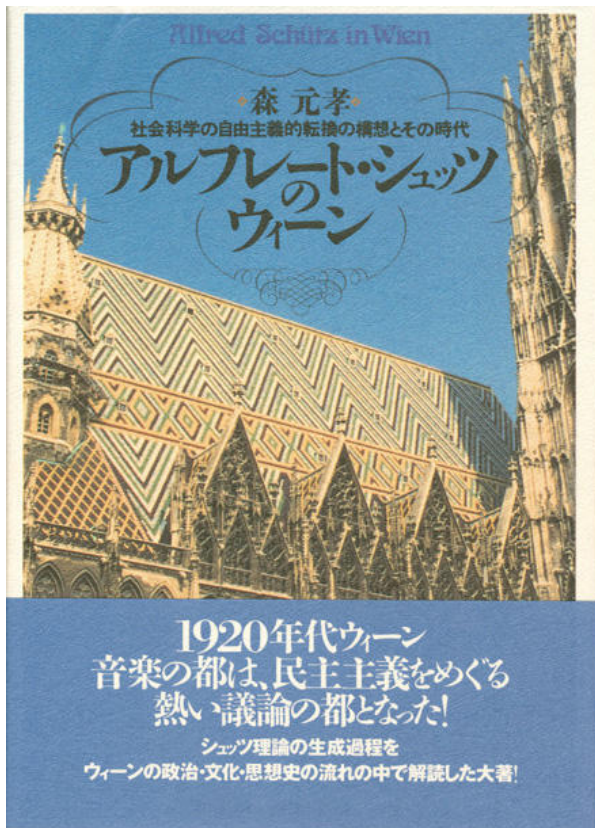
Enter

Copyright Prof. Dr. Masataka MORI
All rights reserved.
Maintained online by webmaster Prof. Dr. Mori.
Last Update: April 1, 2003

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/>

2008・05・20（火）

『アルフレート・シュッツのウィーン』への言及



富永健一先生が『思想としての社会学—産業主義から社会システム理論まで』という800頁を超える大著を上梓された。もう30年ほど前になるが、大学院に進学して社会学者になろうと思った頃、先生の著作はよく読んだし、1979年初春だっ

たと思うが、タルコット・パーソンズの東京での講演会で司会をされて、その要点をまとめた説明には、社会学になるには、あの水準まで行かねばならないのかと思った。ある時代、私の目標であった大先生の新しい著作、そしてその大きさに驚愕している。

光栄なことに、私の処女作である『アルフレート・シュッツのウィーン－社会科学の自由主義的転換の構想とその時代へ』について言及がある。この拙著、刊行後13年となるが、今も繰り返し言及され、引用され、たいへん喜ばしい限りである。

2008・04・20（日）

アルフレッド・シュッツ著 佐藤嘉一訳『社会的世界の意味構成（新訳版）』書評

2001年の青葉の季節、東北大学で集中講義をさせてもらったことがある。早稲田とは少し雰囲気の違いを感じる秀才たちを前に楽しい1週間であった。そんなきっかけもあって、昨年、東北社会学会研究会の雑誌『社会学研究』の第83号に書評の依頼を受けた。年末提出原稿が掲載されている。

社會學研究

2008

特集 ルーマン理論の到達点

巻頭言 現代社会論としての機能分化論	正村俊之
ルーマンの社会の理論——全体像と現代的意義——	長岡克行
ルーマンの経済システム論——現代市場経済の観察——	春日淳一
後期ルーマンの政治システム理論	
——リスク社会のなかの政治と「否定による自律」——	小松丈晃
機能システムのインターフェース、あるいは自律する周辺	
——ルーマン、ヴィルケ、フッターにおける機能システムの《間》の問題——	高橋 徹

< 論 説 >

〈日系—アメリカ人〉というアイデンティティ形成	
——ある日系三世運動家のライフストーリーから——	土田久美子
「共生の作法」の経験的研究を目指して	
——「パラムさんだい」という社会的世界における「対話」理念検討——	山口健一

< 書 評 >

本郷正武著	
「HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学」	大畑裕嗣
アルフレッド・シュッツ著 佐藤嘉一訳	
「社会的世界の意味構成（新訳版）——理解社会学入門」	森 元孝

83.

東北社会学会

2008・03・15（土）

International Study Program 2008 Soeul/ Tokyo



一昨年から続いているドイツのエルフルト大学、バウハウス大学ワイマール、韓国の漢陽大学、京畿大学、日本の横浜国立大学と早稲田大学とでジョイント・セミナーを、今回はソウルの漢陽で前半3日、中1日移動日を入れて、後半3日を早稲田で行いました。

2008・01・29 (火)

理論社会学の将来 - 農村社会学はどうなったか？

謝曉明

— 廣州城市科學院 2004 年 12 月 10 日

1. 南京金陵大学农学院, 1934。

【参考文献】 ① 王德胜. 中国城市人口与土地. 北京: 中国城市出版社, 1998. ② 王德胜. 中国城市人口与土地. 北京: 中国城市出版社, 1998. ③ 王德胜. 中国城市人口与土地. 北京: 中国城市出版社, 1998.

2008・01・17 (木)

「オリンピックのイメージと東京都知事のイメージ」調査(概要)

東京都知事について、1999年から調査を繰り返しています。先週、インターネットによる調査を実施しました。単純集計結果ですが、これから詳しい分析をします。4月頃、報告書をアップする予定です。

概要ご覧になれる方は、<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/> から、「研究」⇒「調査報告」をクリックすると、ページに入ることができます。

調査研究報告

[オリンピック誘致と東京都知事についてのイメージ調査結果概要](#) (報告書教行・速報) (2008年1月)

[ポピュリズムの分解\(その1\)](#) (論文) (2006年11月)

[ポピュリズムの変換\(その1\)](#) (論文) (2006年10月)

[東京都知事のイメージに関する調査](#) (報告書) (2006年1月)

[酒子米国家旗住宅追加建設に関する意識調査](#) (報告書) (2006年1月)

[2004年の東京都知事選挙投票行動に関する調査](#) (報告書) (2005年12月)

[2004年の東京都知事選挙投票行動に関する調査](#) (報告書教行・速報) (2005年1月)

[1999年の東京都知事選挙投票行動に関する調査](#) (調査基本データ) (2001年3月)

2008・01・02（水）

謹賀新年 2008年



8月 ジョイント・セミナーで
ドイツ・ポーランド国境へ



10月 同じくソウルへ



9月 シュップ国際会議で
ウィーンへ

A Happy New Year 2008!



11月 論文集執筆



11月 自著出版



4月地元の自治会食となり遠足など



8月 ジョイント・セミナーでエルフルト



12月 優秀な学生たちと合宿へ

いろいろな偶然が重なり2007年は海外出張の多い年でした。若い頃からの友人と旧交を温め、一世代若いドイツと韓国の研究者たち、若い学生たちと刺激のあるジョイントを繰り返しています。自宅のある住宅地の自治会長になり地域活動の先頭に立っています。新しい出会いと発見を大事にしながら、旧態依然には旗幟鮮明の2008年としたいと思います。

2007・12・20（木）

社会学演習IIA 川奈セミナーハウス合宿



例年どおり川奈セミナーハウスで、1年間の成果を披露し合う報告合宿を行いました。多変量解析を使いこなすための基礎がためはこれで修了しました。よく飲みしゃべりましたが、それ以上によく準備をしてきていたし、勉強家ぞろいの演習でした。

2007・12・01（土）

『貨幣の社会学』への書評

週刊『読書人』12月7日号に、静岡大学の著名な経済学者である高橋洋児先生による『貨幣の社会学』への書評が掲載されています。多少辛口ですが、よく読んでいただいて、たいへん感謝をしております。また、メディアの本質について、改めて次の著作で展開をせねばならないと強く感じました。



2007・11・04（日）

『貨幣の社会学』への書評

『日本経済新聞』（11月4日朝刊）書評欄に、小さな書評が載っている。

貨幣の社会学

森 元孝著

社会学の分野ではケオルグ・ジンメルをはじめ、著名な研究者が重要な研究テーマとして、昔から貨幣や経済社会を取り上げてきた。本書は日本ではとくく経済学の視点からのみとらえがちだった貨幣を、貨幣が深くかわりを持つ市場や銀行などの制度なども含めて、社会的な観点から分析している。著者の大学での講義が基になっているため、広く浅い説明になっているのが難点だが、その分入門者には読みやすくとまっている。（東信堂・一、八〇〇円）

2007・11・01（木）

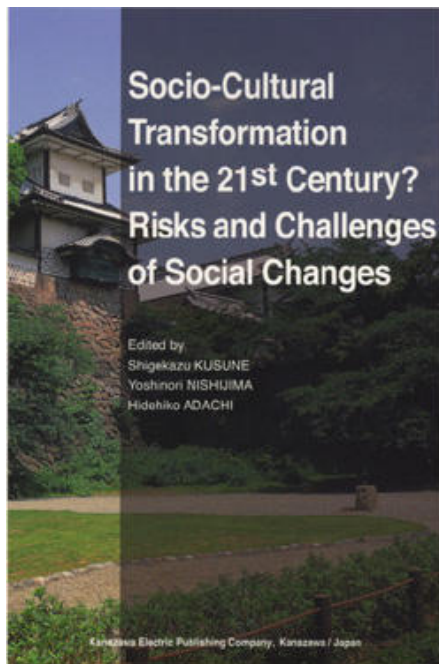
International Study Program Soeul II

10月26日から31日まで、ソウルの京畿大学大学院で、エルフルト、ワイマール、漢陽、横浜国立、早稲田各大学からの学生と教員が集まり、今年春の横浜以来のテーマCityscapeについて参加者の報告・講演と議論、そしてスウォン、アンヤンに1日の遠足、最後にチームごとの映像の共同制作発表、たくさんのことを発見し、たくさん友だちを作って帰ってきました。たいへん面白い1週間でした。来年3月は、このISP最後となります。3月7日から10日までソウル、11日を移動日とし、12日から14日まで早稲田大学戸山キャンパスで開催します。テーマは、City and Consumptionとして、新しい参加学生の募集を12月には始めたいと思っています。とにかく1週間、缶詰になって議論と共同作業をすることには意味があります



2007・10・06（土）

第9回日本ドイツ社会科学大会（金沢大学）のプロシーディングス



昨年の大会のオルガナイザーを一手に引き受けられた金沢大学の楠根先生からどさっと、出来上がったばかりのプロシーディングスが送られてきました。早稲田大学図書館本館と戸山図書館分館にまず寄贈をしました。

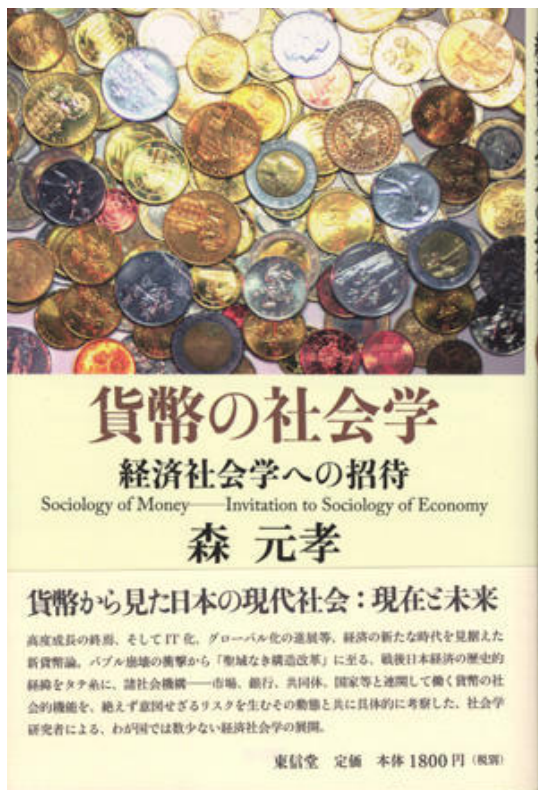
Socio-Cultural Transformation in the 21th Century? -Risks and Challenges of Social Changes, (edited by Shigekazu Ksune, Yoninori Nishijima and

Hidehiko Adachi, Kanazawa Electric Publishing Company という 370 頁の本です。

Mototaka MORI, "Who votes Mr. Ishihara -Two Anatlytical consideration on the Populisim in Tokyo" を載せていただきました。

『貨幣の社会学 ―経済社会学への招待』

ここ数年、第一文学部の社会学研究 6 で行ってきた内容の一部を教科書風の本にまとめました。かつて Talcott Parsons が行ったのに少しにておりますが、貨幣というシンボリックなメディアの典型例を基礎にして、シンボリック・メディアの一般論への展開を準備中です。これを、ここ 2 年ほどの最大の課題としています。



2007・09・25（火）

遅ればせながらの夏休み

8月後半のベルリン、エルフルトでの Joint Seminar、一昨日までのウィーンでの会議、とくに後者は、今年のメインイベントであったこともあり、準備にも時間を要したが、終わったあとの爽快な疲労感とともに、そうかまだ夏休みだと気がつき、28日まで遅ればせながらの、そして短い夏休みとすることにした。



2007・09・23（日）

Woerglに行く

ウィーンでのシュッツ記念の国際会議のあと、せっかくだということもあり、インスブルックに泊まりヴェルグルを訪れることにした。Heimatsmuseum、小さなところだが、ヴェルグルの歴史を詳細に教えてもらった。今まで本で読んで知っていたことは違うことをたくさん教えていただいた。しかし、みんなみんな親切な人たちばかりに驚いた。



2007・09・22 (土)

The 75th anniversary of the publication of Schutz'

The poster is a commemorative announcement for the 75th anniversary of Alfred Schütz's 1925 work 'The Phenomenology of Social Life'. It features a background of faint, handwritten text in various colors. The main title 'Alfred Schütz und die Hermeneutik' is prominently displayed in red and black. Below it, the text 'Internationale Tagung' and the dates '18.-21. September 2007' are visible. The poster lists a series of speakers under the heading 'Mit Vorträgen von', including Ruth AYASS, Michael D. BARBER, George BERGUNO, Daniel BISCHUR, Jochen DREHER, Thomas S. EBERLE, Lester EMBREE, Martin ENDRESS, Annette HILT, Vakhtang KEBULADZE, Elisabeth LIST, Thomas LUCKMANN, Moritake MORI, Hisashi NASU, George PSATHAS, Joachim RENN, Hans-Georg SOEFFNER, Ilya SRUBAR, Andreas STASCHKEIT, Dirk TANZLER, and Bernhard WALDENFELS. It also mentions 'Mit freundlicher Unterstützung von' followed by logos for BMW F, the Center for Global Studies in Philosophy, diaφopía, Jewish Welcome Service Vienna, IWM (Institut für die Wissenschaften vom Menschen), ÖBV (Österreichische Versicherung), and WIEN KULTUR. The organizing institution is the 'Institut für die Wissenschaften vom Menschen (IWM)' located at Spittelauer Lände 3, 1090 Wien, with contact information: Tel.: ++43-(0)1-313 58-0 and http://www.iwm.at. The contact person is Michael Staudigl, with email staudigl@iwm.at.

Mit Vorträgen von
Ruth AYASS
Michael D. BARBER
George BERGUNO
Daniel BISCHUR
Jochen DREHER
Thomas S. EBERLE
Lester EMBREE
Martin ENDRESS
Annette HILT
Vakhtang KEBULADZE
Elisabeth LIST
Thomas LUCKMANN
Moritake MORI
Hisashi NASU
George PSATHAS
Joachim RENN
Hans-Georg SOEFFNER
Ilya SRUBAR
Andreas STASCHKEIT
Dirk TANZLER
Bernhard WALDENFELS

Mit freundlicher Unterstützung von
BMW F
Center for Global Studies in Philosophy
diaφopía
Jewish Welcome Service Vienna
IWM
ÖBV
WIEN KULTUR

Alfred Schütz
und die
Hermeneutik

Internationale Tagung
18.-21. September 2007

Tagungsort:
Institut für die Wissenschaften vom Menschen
(IWM)
Spittelauer Lände 3
1090 Wien
(U 4 Friedenstrücke)
Tel.: ++43-(0)1-313 58-0
http://www.iwm.at

Organisation & Information:
Michael Staudigl
staudigl@iwm.at

アルフレート・シュッツ『社会的世界の意味構成』が出版されてから75周年にあたる今年、9月18日から21日まで、ウィーンにあるInstitute for Human Sciencesにおいて「アルフレート・シュッツと解釈学」と題して国際会議が開催された。私も招待を受け"The Denationalization of Peace - Der sinnhafte Aufbau der sozialen Welt and Professor Tomoo Otaka"と題して報告をさせていただいた。たいへんに光栄なことであった。

http://www.iwm.at/index.php?option=com_events&task=view_

detail&agid=192&year=2007&month=09&day=18&Itemid=472

Oskar Morgensternの生地



ISPでベルリン、エルフルトでセミナー、それも朝から夜までの充実したというよりも、へとへとセミナー。その途中、テーマに合わせて、ドイツとポーランド国境にある町Goerlitzを訪れた。第二次大戦後のドイツの東側国境オーデル＝ナイセ線にまたがる、この町、川をはさんで二つに分けられた。セミナーのメンバー、ドイツの先生、学生たちは身分証を提示するだけであったが、日本と韓国のわれわれは、パスコントロールを受けることになり、延々川沿いに歩いてパスコントロールを行う橋にたどりついた。Goerlitzはヤコブ・ベーメの町として知られているが、いろいろ調べていて、初めて知ったのは、Oskar Morgensternもここで生まれていたのである。

2007・09・02（日）

『貨幣の社会学 ―経済社会学への招待』 東信堂
10月刊行です。



第一文学部社会学研究6 でここ数年行ってきた授業の内容を
本にしました。10月に刊行する予定です。

International Study Program Berlin/ Erfurt



3月の横浜国立大学に続いて、ドイツ、ベルリン日本ドイツセンター、エルフルト大学でジョイントセミナーがあった。朝8時から夜7時までの強行スケジュールで疲れたが、学生たちのみならず、私も多くのことを学んできた。途中遠足で、ドイツポーランド国境にある町ゲルリッツを訪れた。バウハウスの建築の学生たちの説明を聞きながら見物した。美しい街であった。

2007・03・06（火）

ISP 横浜国大



昨年、早稲田、ソウル漢陽大学に続いて、横浜国立大学で独韓日のジョイントセミナーがあり、参加してきました。夏は、ドイツ、ベルリンとエルフルトで開催することになっています。

2007・01・08（月）

最初の書評をいただきました。



『毎日新聞』（1月7日付）「今週の本棚」に、東京大学教授松原隆一郎氏による拙著『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィーン』についての書評記事「市場の〈自生力〉を生かす条件とは」が載せられています。過分な評価に感謝をしております。 <http://www.mainichi.co.jp/universalon/clipping/200701/038.html>

2006・12・31（日）

謹賀新年



2006・12・27（水）

新睦人編『新しい社会学のあゆみ』有斐閣



新先生とは、1982年金沢大学であった社会学史学会のとき、初めてお会いをして話をして以来、たいへん長い間、たくさん のことを教えていただいていた。今回、先生の編集で、その中 の1章を書かせていただいた。

「社会学史」は、もう流行らない。早稲田大学の社会学カリキュラムにもこの科目はもうない。それはそれでよいのであるが、社会学者たち、その多くは、「ヴェーバー」「ジンメル」「デュルケム」にはじまり、「ハーバマス」「ルーマン」「フーコー」「デリダ」にいたるまで、固有名詞をすぐに挙げたがるが、これら古典、先駆者たちの著作を緻密に読んでいく能力の

欠けている。

ちょっとインタビューをして質的調査の実践と思い、それにちょっとコメントをつけるのが、社会学の報告の主流である。

こういう風潮に抵抗して、まずは著作を緻密に読みつくすという習慣を、とりわけ若い世代の社会学徒には期待したいところである。新しい社会学のあゆみ

2006・12・19（火）

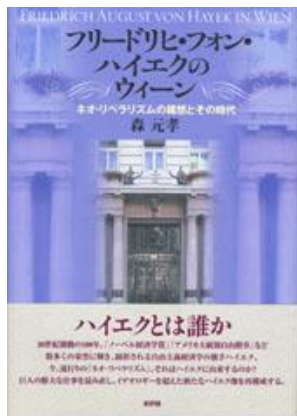
社会学専修の学生たち

川奈セミナーハウスで合宿をした。毎年のことであるが、今年は2年生たちである。SPSSを使いこなし、因子分析、クラスター分析なども十分に使えるようになったし、その成果報告会、8グループ、各1時間の報告マラソン。早稲田大学第一文学部社会学専修の学生たち、優秀であり将来性もある。多少、批判をしたり討論をしたりするところに、今の世の中、「そんなこと言ったら、浮いてしまう」ということだろうか、物足りなさも感じるが、あれこれ喋るのは年齢とともにあつかましくなろう。たぶん今必要なことは、コンピュータに強くなり、外国語に強くなり、そしてたくさん本を読むことであろう。



2006・11・27（月）

『フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィーン』の出版



11月25日、新評論から、自著を出版。その「あとがき」に次の文章を記した。

「社会学を仕事とする者としては、個別の事例研究と大規模に組織化された調査研究だけに、この学の重心が置かれるようになって久しく、今や社会学とは組織的な調査と個別的な事例研究のそれだと考えられる時代となってしまったことを残念に思いつつ、しかしまだなおこの学が、社会についての理論性を保つ学問であろうとするなら、隣接の経済学、政治学、法律学、そして哲学への目配りのできる精確な学識を背景に理論彫琢をしていくための基礎を作ることは不可欠なことであり、本書がそのための糸口となれば、さらに嬉しいところである。」

社会学にかかわり長い時間が経ったが、この10年、急速にこの学問の理論性が減退しているのを感じる。この傾向に歯止めをかけたいというのが、このブログ開設の動機である。フリードリヒ・フォン・ハイエクのウィーン-ネオ・リベラリズムの構想とその時代

2006・11・04（土）

東京都知事についての研究 ― 調査報告書

1999年から行っている東京都知事についての研究。繰り返して行っている調査のpdf版結果報告書。

調査研究報告

ボビーズさんの分解（その1）（[論文](#)）（2006年11月）

ボビーズさんの電機（その1）（[論文](#)）（2006年10月）

東京都知事のイメージに関する調査（[報告書](#)）（2006年1月）

地子太郎参事任毛退知建法に関する意識調査（[報告書](#)）（2006年1月）

2004年の東京都知事選挙投票行動に関する調査（[報告書](#)）（2005年12月）

2004年の東京都知事選挙投票行動に関する調査（[報告書資料・論文](#)）（2005年1月）

1999年の東京都知事選挙投票行動に関する調査（[調査結果データ](#)）（2001年3月）

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Study/General/research01.html>

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/New/pages/front01.html>

2006・10・28（土）

日本社会学会大会(立命館大学)権力部会（２）で司会をしました。

権力・政治(2)

教室 242 (ディスプレイ)

司会者 森 元孝 (早稲田大学)

1 東京の社会的ミリュウと政治 —— (1)ドイツにおけるミリュウ研究——

大妻女子大学 伊藤 美登里

2 東京の社会的ミリュウと政治 —— (2)東京版「ミリュウと政治」研究の課題と方法

一橋大学 丸山 真央

3 東京の社会的ミリュウと政治 —— (3)日本のミリュウの構造、日本人はライフスタイルによってどう分類されるのか——

徳島大学 松谷 満

4 東京の社会的ミリュウと政治 —— (4)東京版ミリュウの諸特徴——

大妻女子大学 久保田 滋

5 東京の社会的ミリュウと政治 —— (5)ミリュウからみた東京論。属性変数との関連

徳島大学 矢部 拓也

6 東京の社会的ミリュウと政治 —— (6)なぜ石原慎太郎は好かれるのか、あるいは日本的極右の支持基盤をめぐって——

徳島大学 樋口 直人

7 東京の社会的ミリュウと政治 —— (7) 2005年衆院選における自民圧勝の勝因分析

日本学術振興会 高木 竜輔

日本社会学会大会(立命館大学)権力部会（２）で司会をしました。東京都知事およびその支持動向についての経験データにもとづいた政治社会学的研究報告であり、たいへん有意義な午後を過しました。 http://www.soc.nii.ac.jp/jss/research/conf79_2.html

2006・10・14（土）

富士山

第9回日本ドイツ社会科学会大会（金沢大学）<http://www.nichidoku.org/>へ行く途中見た、朝の富士山。



2006・10・05（木）

韓国に行ってきました。



ISPのソウル。漢陽大学でのジョイント・セミナーに参加してきました。焼肉たくさん食べました。

2006・09・02（土）

ジョイント・セミナーに参加する

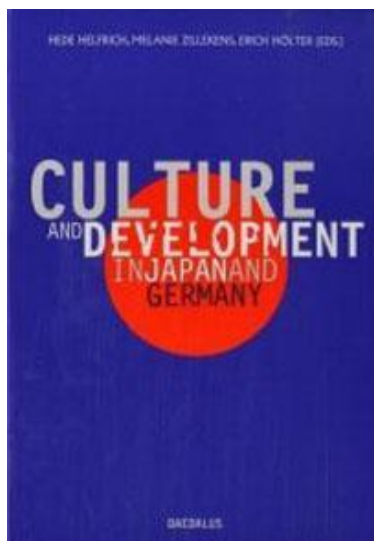


ドイツ文学高橋透先生が代表のジョイント・セミナーに参加してきました。

<http://www.f.waseda.jp/ttoru/isp/>

日本ドイツ社会科学会雑誌

Mototaka MORI, "Neo-Nationalism or Palaeo-Nationalism -Is Ishihara's Phenomenon the Populism in Japan", in: Hede Helfrich, Melanie Zillekens, Erich Hoelter(eds.), Culture and Development in Japan and Germany, Daedalus Verlag: Muenster, pp.93-111.



Culture and Development in Japan and Germany

2005・12・17（土）

川奈セミナーハウスでの合宿

第一文学部社会学専修3年生、社会調査実習の報告合宿会で、内容のある議論をしてきました。1年間、実習をつうじて得た成果とともに、人間関係も厚くなりました。



2005・10・29（土）

日本社会学会大会（法政大学）で報告をしてきました。

権力・政治 (2)

教室 501（プロジェクタ）

司会者 矢澤 澄子（東京女子大学）

1 公共性を再定義する —— 逗子と東京から ——

早稲田大学 森 元孝

2 ポピュリズム？ —— 指導者民主制と決断主義 ——

早稲田大学 木村 正人

3 「変化への期待」の形成 —— 「東京都知事に関する調査」をもとに ——

早稲田大学 笹野 悦子

4 両義的に主題化される外国人 —— 東京都知事に関する調査を手がかりにして ——

早稲田大学 多田 光宏

数年調査中の東京都知事選挙の結果分析と動向、さらに「ポピュリズム」について報告をしました。 http://www.soc.nii.ac.jp/jss/research/conf78_3.html

2005・02・02 (水)

Talcott Parsonsについて書く



Mototaka MORI, "Talcott Parsons and theoretical sociology in Japan -The Social System Theory and its Influence on Japanese Sociologists", in: Ilja Srubar, Shingo Shimada (Hrsg.), Development of Sociology in Japan: Jahrbuch fuer Soziologiegeschichte, VS Verlag Fuer Sozialwissenschaften, pp.127-141.

http://www.amazon.de/o/ASIN/3531145134/ref=s9_asin_image_0/302-1994310-0022457

2004・12・17（金）

鴨川セミナーハウス



今回は選挙管理委員会から学生の調査実習では選挙人名簿の閲覧は許可できないということを言われ、急遽、住宅地図で精密なサンプリングする方法を開発。東京都内7地区に6300サンプルという大量観察を行った。すでに結果概要もまとまっている。過去にない困難に見舞われたけれども、とっても楽しく、言いたいことは言い、仕事をする時は仕事をするたいへん素晴らしいゼミでした。春は川奈に、晩秋は鴨川にそれぞれ2泊3日の合宿を行いました。それぞれ準備してきたレポート、とりわけ秋も深まった頃鴨川での合宿では、調査結果を精密に分析したレポートも少なくなく、学生さんたちの才能に感心しました。

2004・09・19（日）

ウィーン・早稲田ジョイントセミナー2004



ジョイントセミナーは、学生相互の交流にとっても重要ですが、教員にとっても、何をどのように教えてきたのか、そしてこれからどのようにするのかなど、外国人同僚と共同作業をすることは、たいへん勉強になります。

写真は、ウィーン早稲田ジョイントセミナーの1コマ。ウィーン大学学生たちと打ち解け合うためもあり、ウィーンから2時間ほど離れたRax山へハイキング。午前7時45分に昨年度のジョイントセミナーで早稲田に来たハラルド君が宿舎に迎えに来てくれ、一緒に南駅まで地下鉄などで向かう。8時半に到着。鉄道で途中Wienerneustadtで乗り換えPayerbach-Reihenau駅に10時過ぎ到着し、下車（参加者は、早稲田側5人と大地さん、クラウザーさん、ヴェスさん（日本学者）、トビアス、ターニャ、ベルンハルト、ハラルド、

ゴラン、ザビーネ他。

Rax 山に 11 時頃に到着。頂上を午後 4 時半頃までハイキング。相当程度歩いた。学生双方の親睦を深めるためによりハイキングであった。午後 5 時、ライヘナウ駅に戻り、ウィーンに向かう。

詳しくは、 <http://www5f.biglobe.ne.jp/~vienna/vienna-waseda04/pages/page01.html>

ブログ mori-system

<http://wienmoto.at.webry.info/>

著 者：morilyn

発行日：2010年07月31日

発行所：Obunest

EAST Co., Ltd./Obun Printing Company, Inc.

運 営：イースト株式会社

<http://www.est.co.jp/>

PDF変換：欧文印刷株式会社

印刷・製本：欧文印刷株式会社

<http://www.obun.jp/>

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが下記のアドレスにご連絡ください。

mybooks_info@est.co.jp

201007310029-011-7FAF19



背表紙は左のようになります。

半角英数字を使用している場合は**半角英数字だけ90度回転**した状態になります。
なお製本サービスをご利用の場合、総ページ数が一定のページ数（モノクロは121ページ、カラーは141ページ）に達しない場合は背表紙に文字は入りません。
ご承知おきください。

ブログ mori-system

morilyn

英数字が90度回転しない
ようにするには.....

お申し込み画面の「書籍
のタイトル」と「著者名」
を入力するときに全角文
字で入力してください。

＜英数字を半角で入力した場合＞

子育て日記 VOL. 2

▼
子育て日記 VOL. 2

＜英数字を全角で入力した場合＞

子育て日記 VOL. 2

▼
子育て日記 VOL. 2